

【磯子区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日（金）10 時 00 分～11 時 15 分
場 所	磯子区役所 7 階 701、702 会議室
出席者	<p>【座 長】 武田 勝久 議員</p> <p>【議 員： 3 名】 二井 くみよ 議員、関 勝則 議員、 太田 正孝 議員</p> <p>【磯子区： 25 名】 高橋 功 区長、八谷 将人 副区長、 近藤 健彦 福祉保健センター長、 立花 千恵 福祉保健センター担当部長、 黒羽根 能生 磯子土木事務所長、 渡邊 浩司 磯子消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>議題 1 令和 6 年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>議題 2 令和 7 年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について</p> <p>議題 3 令和 8 年度磯子区予算編成の考え方について</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題 1 令和 6 年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>二井議員：いくつか質問させていただきます。まず、4 ページの「多文化共生推進事業」について、外国人のボランティアの方がごみの分別啓発や防災座談会を開催してくださっていることに非常に感謝しております。私自身、そうした現場に立ち会ったことがなく、今後ぜひ会議などにもお伺いし、取組を拝見したいと考えております。防災やごみ分別については、地域で相談を受ける機会もありました。現在、区として外国人の方が抱える課題について、どのように認識されているのか、お伺いしたいと思います。</p> <p>荒木地域振興課長：昨年度は、地域イベント等において外国人ボランティアの方による分別啓発や座談会を実施いたしました。今年度は、少しやり方を変え、9 月から区内 7 か所で実施している日本語教室に、ラウンジからスタッフを派遣して、アウトリーチという形で防災に関する取組も進めていくことを検討しております。今後、</p>

各自治会町内会からもお話が出てくるかと思いますが、まずは可能なところから様々な形で取り組んでまいります。日本語教室での防災啓発等の日程が決まりましたら、ご案内させていただきますので、ぜひご覧いただければと思います。

二井議員：多くの方が地域で孤立せず、不安を解消しながら暮らしていけるよう、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

次に、7ページの「自治会町内会活動デジタル化支援事業」についてですが、予算額と決算額に開きがある点が特徴だと感じました。事業の執行がうまく進まなかった部分があるのではないかと考えております。私自身、デジタルは苦手ですが、高齢化が進む町内会の方々も同様かと思いますが、区全体としてのデジタル化に対する所感をお伺いできればと思います。

荒木地域振興課長：デジタル化支援事業につきましては、形を変えながら5年ほど前から取り組んでおります。現在は、困っていることに対してお答えするインタラクティブな形で対応しております。関心の高い町内会の方々には早くからご参加いただいておりますが、輪が広がりにくい状況もございます。昨年度は8団体の参加がありました。今後も関心のある自治会町内会に対しては、引き続き支援を行ってまいりますので、ぜひご活用いただきたいと思いますと考えております。

二井議員：デジタル化は慣れてしまえば非常に便利だと思いますので、導入の有無に関わらず、自治会活動に取り組む方々へのサポートを、引き続きお願いしたいと思います。

次に、23ページの「フレイル予防」について伺います。「磯子けんこう体操」が掲載されています。令和6年度に健康・スポーツの特別委員会で愛媛県松山市に視察に伺いましたが、「松山健康体操」のように市民レベルで浸透している事例もあります。磯子けんこう体操について、区民のどれくらいの方を対象に普及を進めていく方針なのか、お聞かせください。

柴田高齢・障害支援課長：フレイル予防については、フレイルの状態になる少し前から意識を持っていただくことを目的として、主に65歳以上の高齢者の方々を対象に、普及啓発していきたいと考えております。現在、インターネットで動画配信を行っており、再生回数は約4,300回となっております。地域の元気づくりステーショ

ンや地域ケアプラザなどでも動画案内のリーフレットを配布し、啓発活動を進めております。また、インターネットが利用できない方々や、地域の会場で皆さんが活動できるよう、DVD も作製しており、令和6年度は、区役所や地域ケアプラザの窓口、シニアクラブを通じて広く区民に配布しました。

二井議員：運動や体操は継続することで非常に効果があると感じておりますので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。私自身も、機会を捉えて、区内で紹介していきたいと考えております。

次に、34 ページの「在宅避難」について伺います。リーフレットの配布を行ったとのことですが、地域防災拠点に避難するわけではないため、成果が見えにくいのではないかと感じております。

一方で、地域防災拠点の収容人数には限りがあり、全員が避難できるわけではありません。リーフレット配布による令和6年度の成果について、どのように評価されているのか、お聞かせください。

角田総務課長：在宅避難リーフレットにつきましては、令和6年度に 66,000 部を配布いたしました。作成部数は 75,000 部で、現在もお問い合わせがあれば随時お渡ししております。リーフレットには備蓄品や自宅での対策について分かりやすく記載しており、連合の地区ごとの地図や避難場所も掲載しております。そのため、「分かりやすくよかった」とのご意見をいただいております。ただ、実際に在宅避難につながっているかどうかは把握しづらい面もございます。アンケート等では、備蓄の必要性は理解されていても、実践に結びついていないという課題もあります。今後、備蓄の実施率などの数値が上がってくれば、在宅避難への意識と実践が伴ってきていると判断できると考えております。

関議員：「GREEN×EXPO 2027」について伺います。いよいよ開催まで1年半となりました。区役所では様々な啓発活動を行っていることは承知しております。うちの町内会でも、夏祭りの際にブルーミングリングを配布させていただきました。ただ、実際に関わってみると、意外と浸透していないと感じました。今後、区役所としてどのような課題を認識し、どのような取組を進めていく予定か、ご紹介いただければと思います。

吉田区政推進課長：GREEN×EXPO 2027 のPRについては、私たちもまだまだ

できることがあると認識しております。区役所内での広報活動に加え、歩道橋や公共施設などに横断幕を掲げ、区民の目に触れる機会を増やすよう努めております。また、地域との連携を強化し、自治会町内会の皆様にもご協力いただきながら、秋の健民祭などのイベントで PR 活動を展開し、浸透させていきたいと考えております。さらに、環境啓発イベントや講座も行っているので、小学生をはじめとしたお子さん方の環境についての学びの先に、GREEN×EXPO 2027 があるということもしっかり PR していきたいと考えております。

関議員：キャラクターなども活用しながら、区役所ならではの取組をぜひ進めていただきたいと思います。ただ、取り組むにあたって、GREEN×EXPO 2027 は国主導の事業で連携が取りづらいところもありますので、市や区が間に入って進めていただきたいと思います。次に、「子どもたちの虐待防止」について伺います。決算資料にもありましたが、虐待死ゼロとのことで、この取組が長年続けられていることを評価しております。啓発活動なども行われていますが、行政として、これまでの取組に対する所感をお聞かせください。

坂東こども家庭支援課長：児童虐待防止につきましては、母子保健と児童福祉が一体となって、関係部署とも連携しながら予防に努めるとともに、虐待が疑われる家庭には通報を受けて対応するなど、地道に取り組んでいます。地域の皆様にも見守りにご協力いただき、エリア別の虐待防止連絡会などを通じて、子育て関係者の皆様とともに、身近な大人が虐待に気付ける取組を積み重ねてまいりました。今後も局と連携しながら、啓発活動を含めて、一人でも多くの子どもの権利を守るために尽力してまいります。

関議員：通報窓口として区役所への通報件数が増えていると感じていて、区役所の対応も大変だと思います。啓発活動は関心の高い方々には届いていますが、届きにくい家庭へのアプローチ方法についても、ぜひ新しい取組を取り入れていただきたいと思います。最後に、「ふるさと納税」について伺います。令和6年度のふるさと納税による減収が約300億円に届こうかという状況ですが、横浜市への納税額は16億円程度と伺っております。この差が年々広がっていることに懸念を抱いております。磯子区内で返礼品を

提供している企業があるかどうかお伺いします。

角田総務課長：局に確認したところ、磯子区内では大きく3つの事業者が返礼品を提供していることが分かりました。1つ目は岡村に工場がある「バニラビーンズ」で、チョコレート関係の製品を提供されています。2つ目は「杉田梅」の関連商品を詰め合わせた返礼品を扱う事業者です。3つ目は「日清オイリオ」で、油の詰め合わせセットを提供されています。

関議員：バニラビーンズは有名なお菓子で、岡村に工場があるとは知りませんでした。杉田梅も磯子区を代表する特産品です。また情報がありましたら教えてください。横浜市にたくさんふるさと納税をしていただけるよう仕掛けをしていきたいと思います。

議題2 令和7年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について

二井議員：いくつか確認させていただきたいと思います。まず、4ページに記載されている「ペット同行避難」に関する内容についてですが、磯子区内の21拠点における一時飼育避難所の設定状況について、全ての拠点で設定が完了しているのか、お伺いします。

古家生活衛生課長：ご質問の一時飼育場所の設定状況についてですが、現在、磯子区内21拠点中、19拠点で設定が完了しております。今年度当初の時点では3拠点が未設定でしたが、その後1拠点で設定が完了し、現時点では残り2拠点が未設定となっております。未設定の拠点につきましては、今年度内での設定完了に向けて、引き続き働きかけてまいります。

二井議員：令和6年度中に設定完了を目指すというお話だったかと思いますが、現時点でまだ2拠点が未設定とのことですね。その理由について教えてください。

古家生活衛生課長：未設定の理由につきましては、1拠点が工事中であること、もう1拠点は拠点側の都合もあり場所の設定が難しいという状況がございます。現在、生活衛生課として直接拠点側と調整を進めております。

二井議員：ペットを飼っている方は非常に多く、好きな方もいれば苦手な方もいらっしゃる中で、より良い避難所環境の整備を進めていただきたいと思います。横浜市では令和7年度からペット同室避難の

本格化に向けた準備が進められていると伺っておりますが、磯子区内において準備の本格化が進んでいるのか、現状についても教えてください。

古家生活衛生課長：磯子区内では、同室避難よりも、まずは同行避難をしっかりと進めていこうと考えております。同室避難については、現在検討段階にあります。

二井議員：承知しました。ありがとうございます。

次に、34 ページに記載されている「つながるマグネット事業」について伺います。昨年度は 797 名に配布されたとのことですが、今年度も継続して実施されているようです。この事業は、どれくらいの区民の方を対象にして、何年間かけて実施される予定なのか、また、1 年間にどれくらいの方にアプローチされているのかも教えていただけますか。

柴田高齢・障害支援課長：つながるマグネット事業につきましては、今年度も継続して実施しております。民生委員の方々が毎年、一人暮らし高齢者に対して訪問を行っていますが、その訪問を希望されない方に対して、フォローとしてマグネットを配布しております。令和 6 年度の場合は、対象者が約 2,000 名で、その内 797 名に配布しました。これまで、そうした方々には区からのアプローチがなかったのですが、お住いの担当地域のケアプラザの情報を届けることで、相談先があるということを知っていただいて、安心感を持っていただくことを目的としています。今後の継続については、効果を見ながら検討していく必要がありますが、ケアプラザや民生委員につながっていない方への啓発としては、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

二井議員：とても大事な事業だと思いますので、必要な方にしっかり届くよう、取り組んでいただきたいと思います。

次に、18 ページに記載されている「案内サインの更新」について伺います。3 月に更新予定とのことですが、今回の更新ではどのような点を工夫・改善されるのか、考え方を教えてください。

吉田区政推進課長：磯子区では、駅前に公共施設の案内サインを設置しております。また、街歩きコースなどにも案内サインを設置しています。これらのサインは設置から時間が経過しているものも多く、定期的に清掃を行っておりますが、見づらくなっているものもご

ざいます。今回の更新では、特に傷みが激しい箇所から順次、計画的に直していくということを考えております。

二井議員：承知しました。ありがとうございます。

太田議員：直接区づくり推進費に関係する話ではないのですが、長年この会議に関わってきて、特に疑問に思っていることがあります。それは「警察行政」についてです。警察行政は県の管轄であるため、この会議には関与しておらず、予算にも反映されていません。区づくり推進費の中には防犯に関する事業もありますが、どうしてもおざなりになっている印象があります。なぜ警察行政が区づくり推進の中に入っていないのかと思っております。ここで言っても仕方ないことなのかもしれませんが、例えば、防犯や交通事故、詐欺など、区民の生活に直結する重要な問題が多くあります。にもかかわらず、この会議ではこうした問題について議論する場がなく、実態を説明する人もいません。警察行政に関する予算を区づくり推進費に組み込むというのも一つのアイデアだが、警察行政の区における役割を明確にしながらやっていかないとはいけません。座長にお願いになるのかもしれませんが、市の議会に対して、県が管轄している区民に重要な問題について、横浜市で取り扱わないと中途半端になってしまうと思うので、議会の方から県の方に申し入れて、県議会議員にもこの会議に参加していただき、意見交換を行う場を設けることも必要ではないでしょうか。

高橋区長：ご指摘ありがとうございます。防犯や交通安全対策は非常に重要な課題であると認識しております。現在、私たちが依頼して地域の方々に報告している内容としては、毎月の区連会での報告があります。昨年度からは署長にも出席していただき、最近の情勢についてご報告いただいております。また、交通の課長と生活安全の課長にもお越しいただき、交通事故の発生状況や詐欺被害の実態などについて啓発していただいております。太田先生から予算も含めて、議論の場が必要であるというご提案をいただきました。これに対しては、ご提案内容を市民局に伝えることが私どもで今できることだと思っております。市民局との議論の中で、新たに報告できることがありましたら、改めてご報告させていただきます。

太田議員：例えば、県から横浜市に配付されている予算の中から、区づくり推進費にも防犯や交通安全対策に関する予算を配分してもらい、1億円の区づくり推進費を、1億3,000万とか1億4,000万円に増額してもらい、区民と区役所職員が一体となって防犯活動に取り組んでいかなければいけないと思います。区づくり推進会議としても議会に対してこういう意見がありますよと伝えてもらった方がいいと思います。市の予算だから市議員だけということではなく、県議員にも来てもらってやらないと本当の意味での区づくりにはならないと思います。座長の方から言ってもらった方がいいと思いますが、他の先生方はいかがですか。

関議員：区の議員団会議という場がありますが、そこでも区役所が進めている事業について県議員の方々にご理解いただく機会があると思います。そういった感じで、議員団会議でやればいいのではないのでしょうか。

高橋区長：区づくり推進市議員会議は、議会としての位置づけがありますが、議員団会議は任意の組織であり、局を含めた市の取組で報告できることがあれば報告させていただいています。磯子区では年1回の開催で、運営方針などを報告し、県議員の先生方からご指導をいただいております。その他にも、日々の様々な場面でご意見をいただき、課題解決に向けて取り組んでおります。議員団会議については、先生方のお話し合いの上で決定していくことができる任意の組織ですので、ぜひ、先生方の間での議論も併せてお願いしたいと思います。

関議員：区づくり推進市議員会議は議長が招集しているため、県議員を招くことは難しいかもしれませんが、任意の議員団会議という場はあります。任意の議員団会議の場で予算に関連する議論が果たしてできるかというのはありますが、地域の安全安心を司る警察行政と、地域と一緒にまちづくりを進める区行政の連携が非常に大事だというのが太田先生のご主張だと思いますので、投げかけていただいたことを進めていくにはどういった障害があるか、進めていくにはどうしたらいいかということについては、私も勉強させていただきたいと思います。

太田議員：例えば、道路に関する問題だけでも、信号機の設置や横断歩道の整備、白線の補修など、様々な課題があります。特に子どもを狙

った犯罪が増えている中で、それを守るためにどうしたらいいとか、非常に重要なことですが、現状では区づくり推進市議会議員会議は議論する場ではありません。座長から議会に対して意見をまとめて伝えてもらいたいと思います。本当はこの予算の中にそういったものが入ってなければいけないと思います。

武田議員：ありがとうございます。非常に重要なご指摘かと思います。座長からという話がありましたが、先生方と相談のうえ、対応を考えていきたいと思います。

それでは、私の方からいくつか確認させていただきます。まず、9ページに記載されている「ボランティアに関心がある若者世代を対象とした講座」についてです。7月に講座が実施されたとのことで、私も少し覗かせていただきました。参加者は中学生から大学生までの数名で、皆さんで取組をされていました。この講座を受けた後、参加された若者たちは今後どのような行動に移されるのか、その点についてお伺いしたいと思います。

荒木地域振興課長：7月の講座に長時間ご参加いただき、誠にありがとうございました。先生のおっしゃる通り、講座には中学1年生から大学生までの6名が参加され、男女比もほぼ同じでした。講座では、チームアップのゲームなどを通じて親睦を深めていただきました。その後の活動についてですが、参加者の皆さんから連絡用のメールアドレスをいただいております。区民活動支援センターから活動の機会をご案内しております。まだ実績はないですが、今月開催される「磯子まつり」において、3R応援隊から「手伝いに来てほしい」とのオファーがあり、講座参加者のうち2名が「参加します」と返答してくださっています。私たちとしても非常に嬉しく思っております。また、講座を受けていない方でも随時「やってみたい」と参加してくださる若者がいらっしゃり、今年度だけで延べ14名の方が活動に参加されています。今年からユニフォームも作成し、皆さんに着用いただいております。例えば、森町内会の夏祭りでは、中学生2名が参加され、関先生が焼いてくださった焼きそばを販売するなど、地域の方々と交流を深めていました。活動後には役員の方から「お疲れ様」と声をかけていただき、素敵な雰囲気での活動の輪が少しずつ広がっているのを実感したところです。今後も講座参加者や参加者以外の方にも、広く

門戸を開いて機会を提供し、よい循環を作っていけるよう取り組んでまいります。

武田議員：講座に参加されていた6名の方々は、私が見た限りでは仲間同士ではなく、単独で参加されていたように感じました。中には磯子区外から来られた方もいらっしゃいました。こうした若者たちは、何をきっかけに参加しようと思われたのか、SNSなどの影響もあるのかもしれませんが、その点について課長はどのように推察されますか。

荒木地域振興課長：実際に情報を見て自ら申し込まれた方もいらっしゃいましたが、保護者の方が「行ってみたら？」と勧めて参加されたケースもありました。今回は口コミによる参加が多かったように思います。日頃から区内の中学校等には情報提供を行っておりますが、若い方が一人で参加するのは抵抗がある場合もありますので、友達同士で広がっていくようなやり方ができればと考えております。今後も試行錯誤しながら、進めていきたいと思っております。

武田議員：引き続きよろしくお願いいたします。

次に、「ISOGO+」について伺います。区制100周年やGREEN×EXPO 2027がありますが、機運醸成にこのサイトを活用していくといった、今後の方針をお教えてください。

吉田区政推進課長：ISOGO+につきましては、区制100周年やGREEN×EXPO 2027に向けて、連動を強化していきたいと考えております。開設以来、ページビュー数は5万回を超えており、多くの方にご覧いただいておりますが、コンテンツとしてはまだまだこれからだと思っております。特に100周年ということで、見どころスポットの紹介などもしておりますが、区の歴史については、サイト上でより深く情報を得られるよう、PRしていきたいと思っております。

武田議員：多くの方々にイベントを知っていただいて、参加していただける基盤づくり、機運醸成を工夫しながらやっていくことは必要だと思います。ISOGO+は非常に良いサイトだと感じておりますので、今後も取り組んでいただきたいと思います。

続いて、「いそピヨ」について伺います。日曜日開所ということで、私も8月に参加させていただきました。日曜日はお父さんも参加しやすく、また猛暑の中で屋内で遊べる環境は非常にありがたい

と感じました。実際に多くの方が来場されており、定員いっぱいの状態でした。ニーズは非常にあると感じていますが、利用者のアンケートや反応について、何かあれば教えてください。

坂東こども家庭支援課長：利用者としてご参加いただき、誠にありがとうございます。Sunday いそピヨは、5月から8月にかけて4回開催し、平均利用者数は平日を大きく上回る約82名でした。うち、男性の参加者は4割弱と高い割合となっております。利用者アンケートでは、ほぼ全ての方から「非常に良かった」「良かった」との評価をいただいております。自由意見としては、「暑いので涼しい場所で遊べてよかった」「平日働いていると、日曜日に遊べるのは助かる」といったコメントをいただくなど、大変好評で定着してきていると感じております。今後も引き続き、男性の参加が広がっていくよう周知していくとともに、多様な子育て世代のご期待に応えられるよう取り組んでいきたいと考えております。

武田議員：ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

最後に、「多文化共生」について伺います。日本語教室に関わっている方から、地域の外国につながる子どもたちへの支援を寄り添ってやっていただいているのですが、周知がもっと必要なのではないかと感じているとの声がありました。区役所として、外国人の方への周知はどのように進めているのか、現状を教えてください。

荒木地域振興課長：多文化共生ラウンジができてから、ラウンジを軸に様々な事業を展開しております。令和6年度には、イベント等で約2,000件の利用がありましたが、本当に困っている方々にどれだけ届いているかという点では、まだ課題があると認識しております。前月の広報区版では、外国人向けの特集記事を掲載し、機会を捉えて情報が届くように展開しているところです。また、区役所内でもラウンジと窓口職員をつなぐ機会を設け、連携を図っております。今後も日本語教室の皆様のご意見を伺いながら、やっていきたいと思っております。

議題3 令和8年度磯子区予算編成の考え方について

太田議員：区制100周年についてですが、市から追加の予算をいただける予

	<p>定はあるのでしょうか。</p> <p>高橋区長：磯子区を含めて５区が令和９年に区制１００周年を迎えますが、それに対する市民局からの予算の追加配当はないとのこと。です。で、私としては、協賛金をこれまでにない高い目標を掲げて集め、皆様方と進めていきたいと考えております。</p>
備 考	